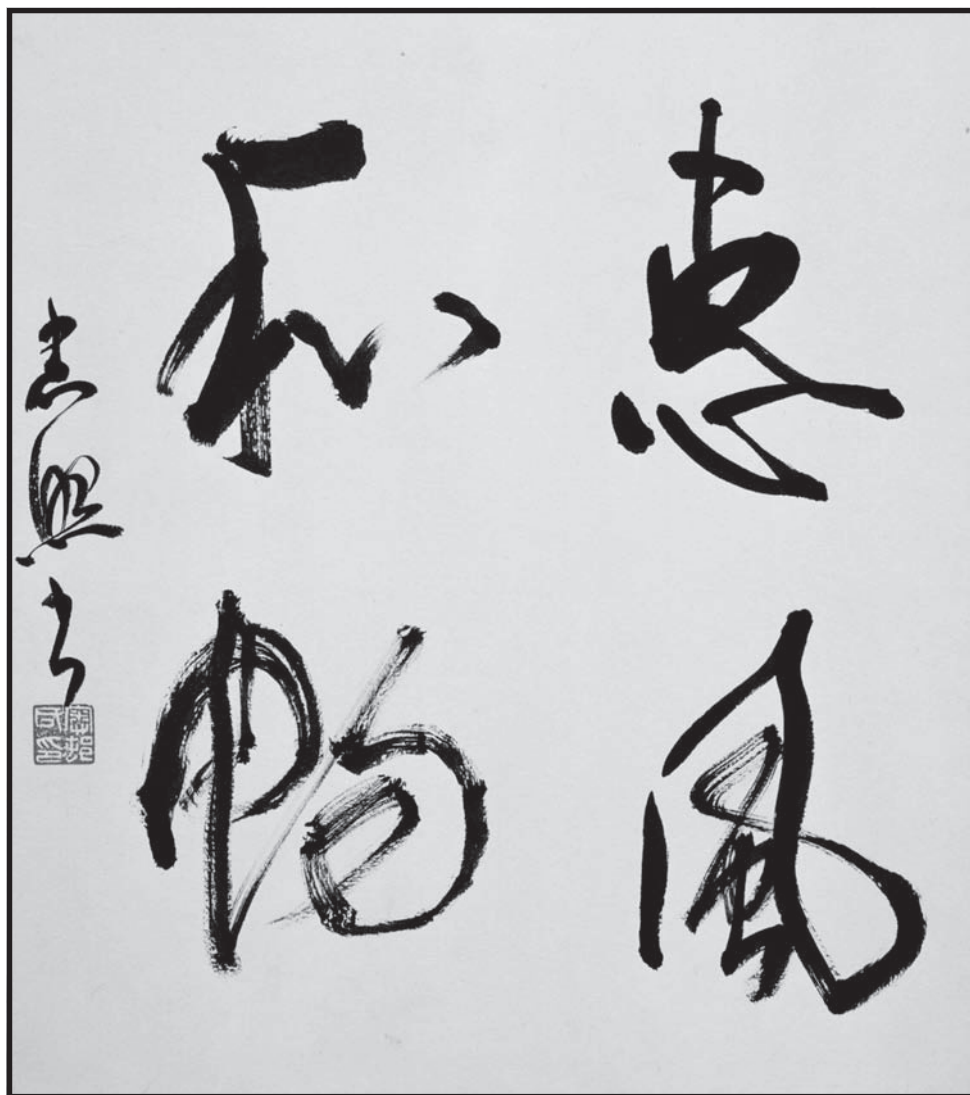


色紙を書く(4)

締切り 四月二十三日(必着)

奥村憲照先生書

〔読み〕 恵風和暢
けいふうわちよう

〔大意〕 恵みの風が吹き、のどかで和やかなこと。

〔出典〕 王羲之・蘭亭叙
おうぎし らんていじよ

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。

◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。

◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

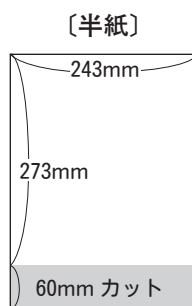
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部Ⅱ左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



▼硬筆部Ⅱ右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×二二一mm)になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具(フェルトペン・マッチ棒・割り箸等)がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

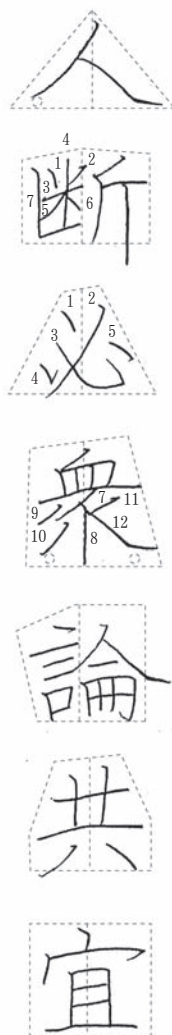
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



◎今月は楷書。楷書は文字の組み立ての基本であり、一点一画の運筆が大切。横線の変化及び右波法等、特に注視して学ぶとよい。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

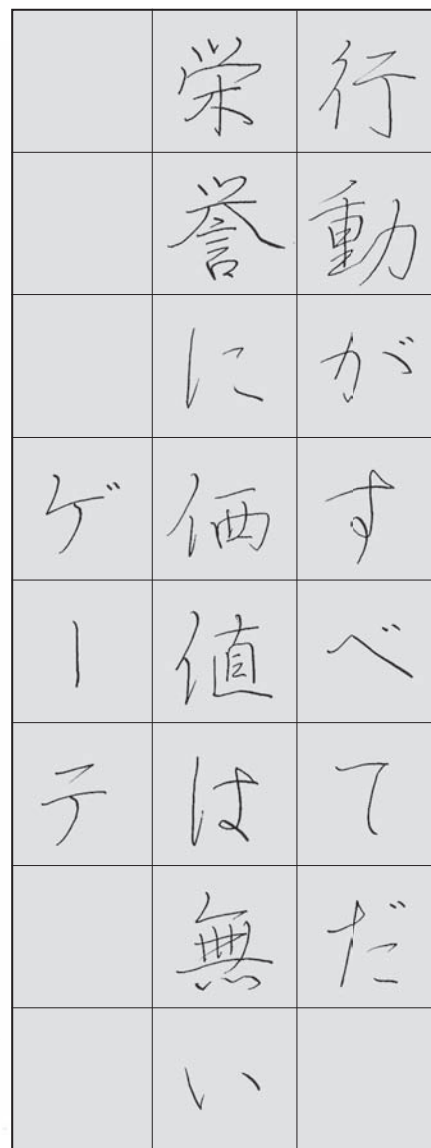
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



四本の縦画は等間隔に



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★行動…（書体＝行書）

ゲーテ（一七九五～一八三二）

ドイツの詩人・作家・劇作家

ゲーテは、様々な場面で「行動する」ことの重要性を述べています。

人はとかく行動する前に、失敗する

かもしれないという不安要素ばかり考

え、何もしないで終わってしまうこと

があります。行動しなければ何も始ま

りません。結果は後からついてきます。

◆5月課題予告（楷書）

一に一を加えて

億とす

これ根気なり

★一人…（書体＝楷書）

聖徳太子（厩戸皇子・五四〇～六〇〇）

飛鳥時代の政治家

歴史上有名な一七条憲法の一つで

す。「物事は一人で判断してはいけな

い。必ず他の者たちと一緒に議論して

決めなさい」と言っています。

もちろん現代の民主主義に通じる考

え方で、話し合いで問題を解決するの

は、日本人の伝統的特質なのでしょう。

◆5月課題予告（行草または草書）

無人島で

紳士たり得る人は

真の人なり

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

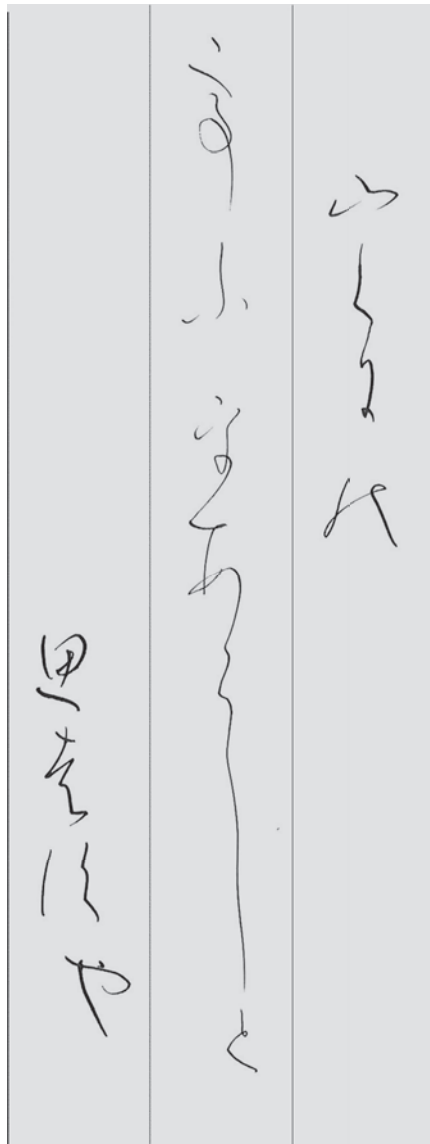
一般部かな課題

締切り 4月23日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

山く国ルの蝶能を荒亭しと思乎はずあらや者

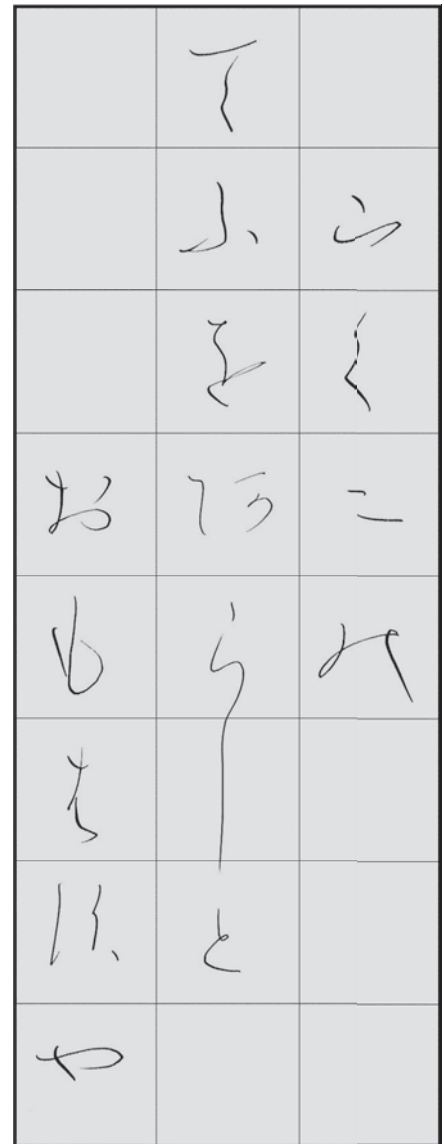


大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

山久国二の蝶能を荒天しと思ふはず阿やら



大 宮 春 兆 書

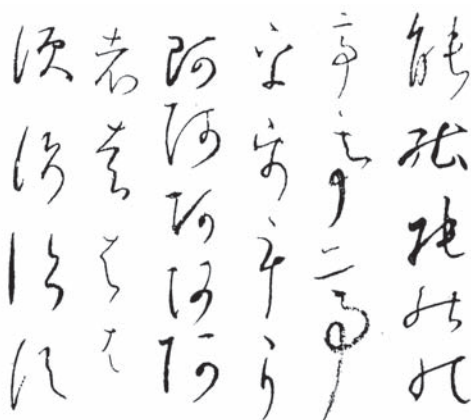
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆5月課題予告
昼ひる寄よ席せきに晒さら井いの声こゑきこえけり

(渡辺水巴)

須おす 者みは 阿しゅんあ 乎ちようを 亭て 能の

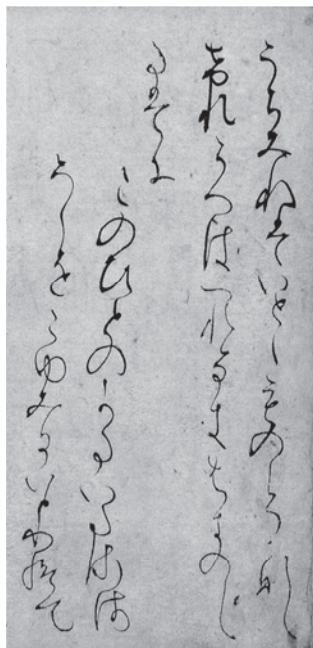


〔古筆参考〕

山国やまぐにの蝶てふを荒あらしと思おもはずや
(高浜虚子)
〔句意〕長くきびしい冬に耐えて、やっと飛翔ひしょうのときを迎えたこの山国の蝶は、何故か荒々しく感じられることである。遠来のあなた方は、そうはお思いになりませんか。

〔古筆参考〕

いちじょうせつしゅうしゅう
一条摂政集

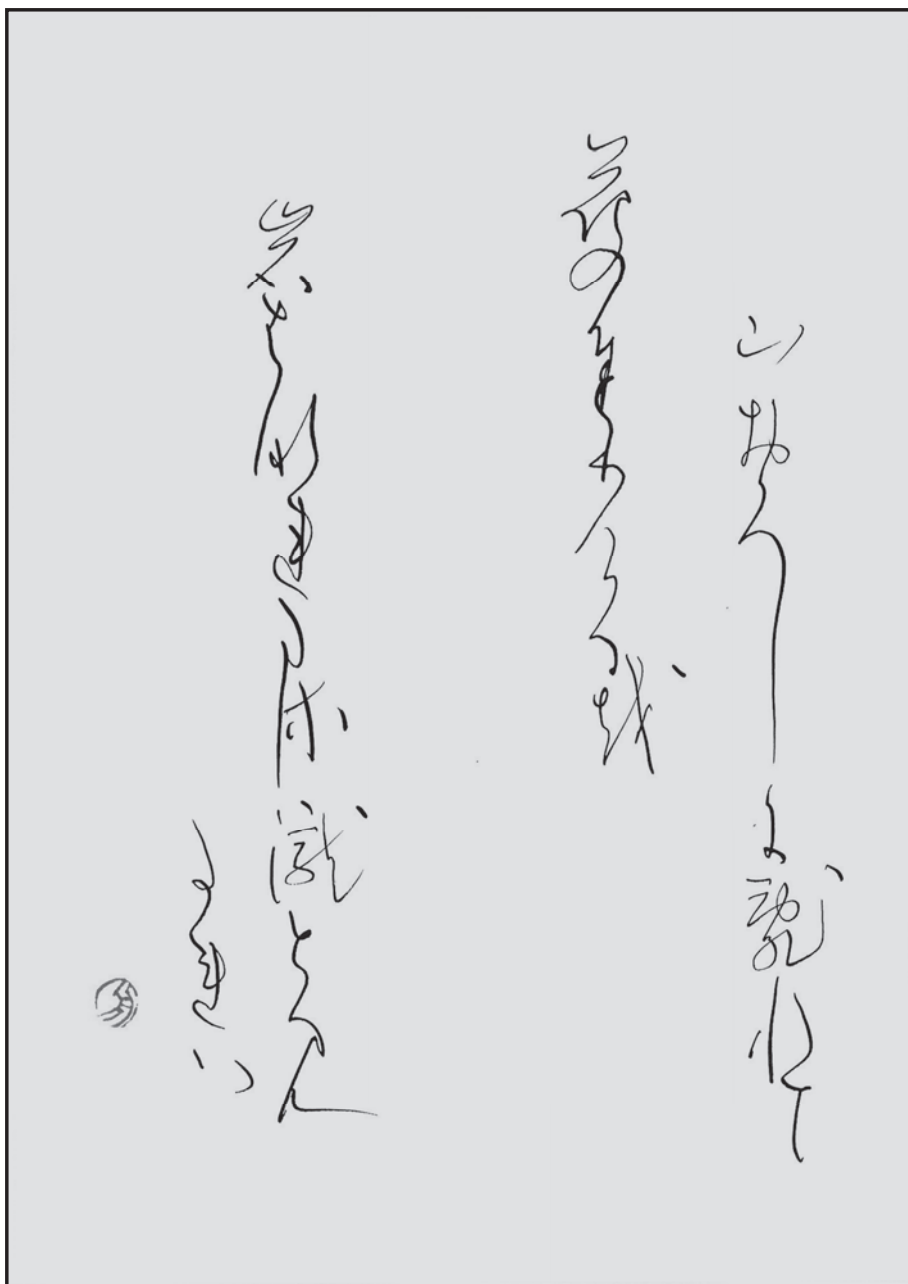


うちみればいとゞものこそかなし
けれうへはつれなきはぎのし
たばに

このひとのかたいたるさ
うしを、こゆみにいとり給て

締切り 四月二十三日（必着）

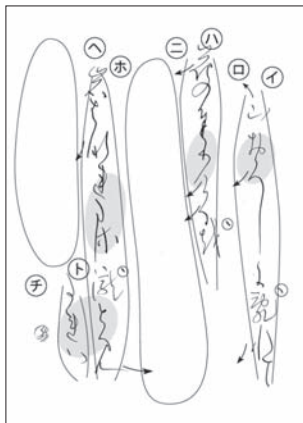
築瀬舟香書



山おろしに乱れて花の散りけるを
岩離れたる瀧と見たれば

〔歌意〕岩壁を離れ飛沫となって落下する滝と見たのであるが、よくよく見ると山おろしのために桜の花が乱れ散っているのであった。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）
〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、呼応。
- ①と⑤、①と⑥、⑤と⑥、①と⑦の
行の揺れ。
- の方向に注意。
- 余白（間）大切。
- 点の位置大切。
- 行の中の密の動き大切。

◆5月課題予告

草しげる道刈りあけて山里は
花見し人の心をぞ知る

締切り 4月23日(必着)

書道教室へ通い始めた徹が、丸をもらって来ては壁にはり、喜んでながめています。間もなく家中が展覧会場になることでしょう。将来は、書道の大家なのかしら。楽しみが次々膨らむ毎日です。

書道教室へ通い始めた徹が、丸をもらって来ては壁にはり、喜んでながめています。間もなく家中が展覧会場になる、と。将来は、書道の大家なのかしら。楽しみが次々膨らむ毎日です。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

4月中旬の山間の溪流を鮮やかな黄色で彩るのが、山吹である。

宮崎県延岡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月23日(必着)



服 憬 彼 獫 戎 為

〔出典〕 孔子廟堂碑（626～633） 〔筆者〕 虞世南（558～638）
 〔読み〕 服せ（さるは無し。）彼の獫戎を憬えば、（患いと）為るは

準初段から師範まで

奥村暢之 臨
 おくむら のぶ ゆき

風色鮮やか 風色鮮やか

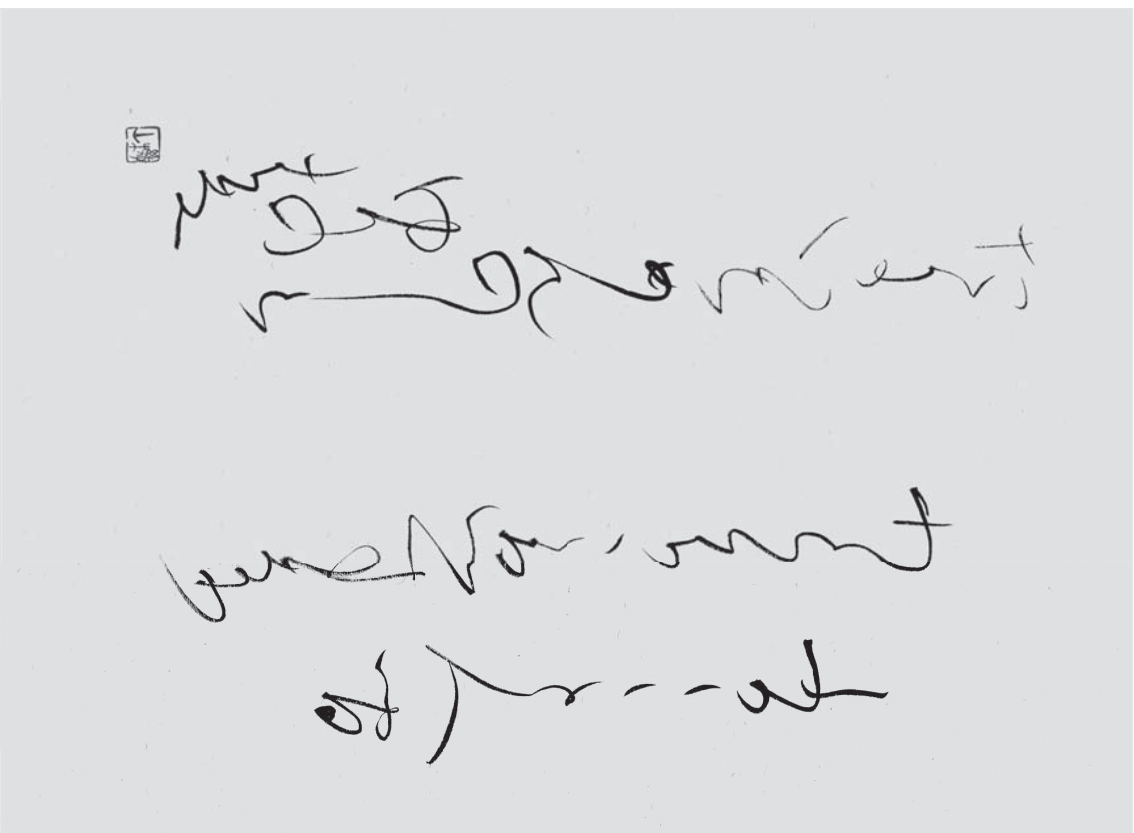
〔読み〕 風色鮮やかに
 〔大意〕 おだやかな風が吹き、草木の色も鮮やかである。

新入から1級まで（行書）

須田一葉 書
 すだ いち ちは

一般部毛筆かな課題

締切り 4月23日(必着)



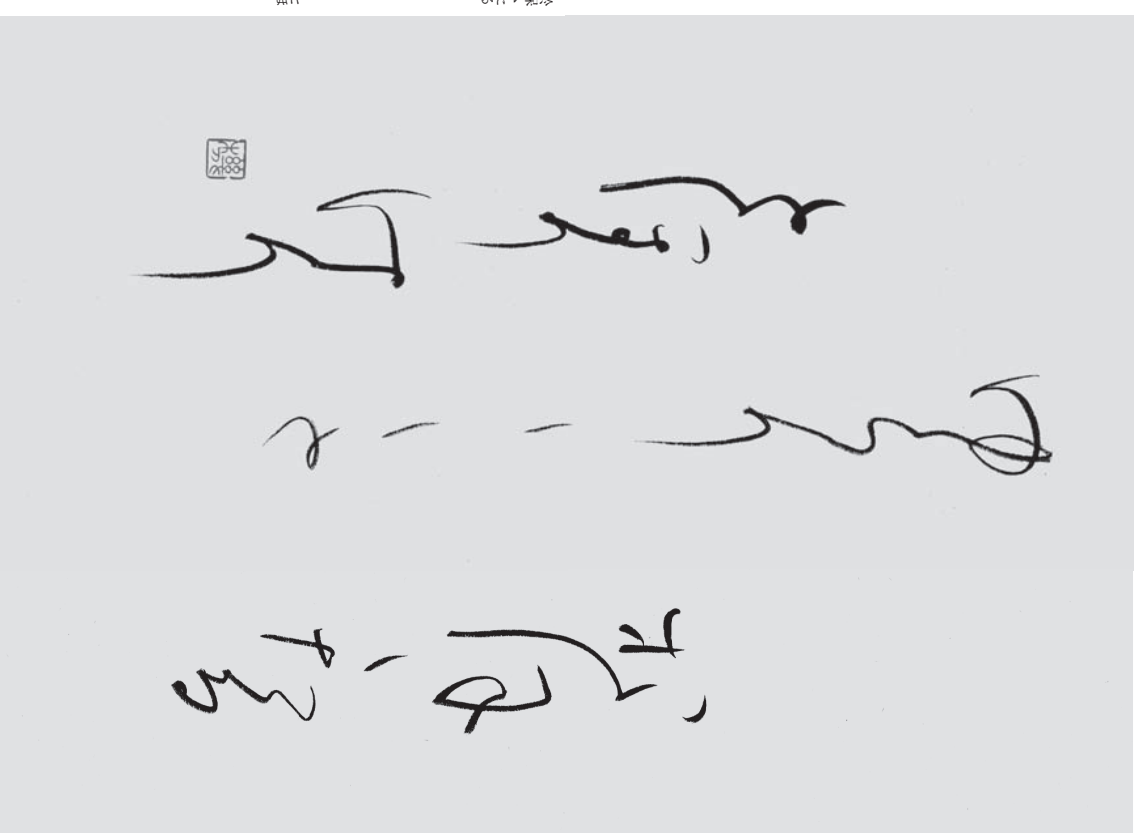
ふかふか 谷いちめんの白百合の花
かふか 谷いちめんの白百合の花
かふか 谷いちめんの白百合の花
かふか 谷いちめんの白百合の花

【出典】 北原白秋

【歌意】 夏の谷に飢えるように人間の笑う声がひびいてくる。この谷には、いちめんに白百合の花がいま満開だ。

準初段から師範まで

■ 画課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



大蛸ゆらりくと通りけり
大蛸ゆらりくと通りけり
大蛸ゆらりくと通りけり
大蛸ゆらりくと通りけり

【出典】 小林一茶

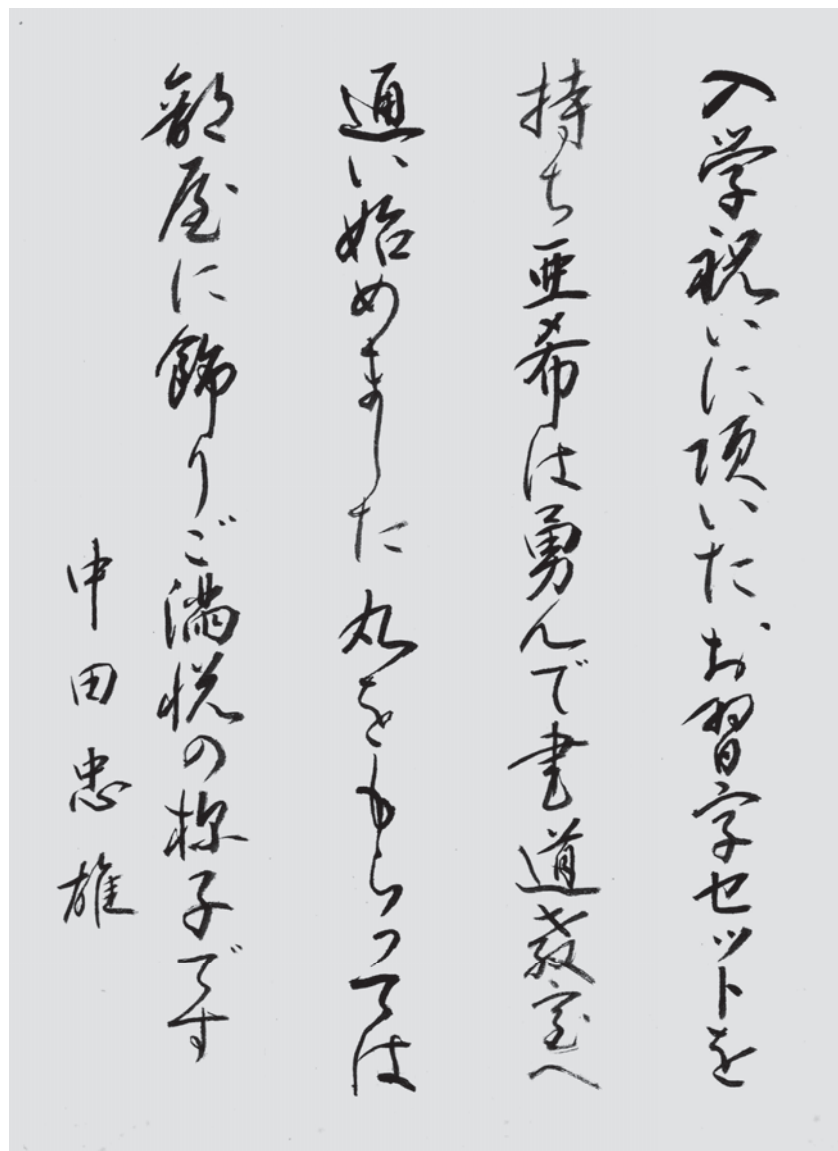
【句意】 大きな蛸のさまが「ゆらりゆらり」にとらえられている。感嘆して見守る一茶の姿も思われる。

新入から1級まで

浅井機山先生書

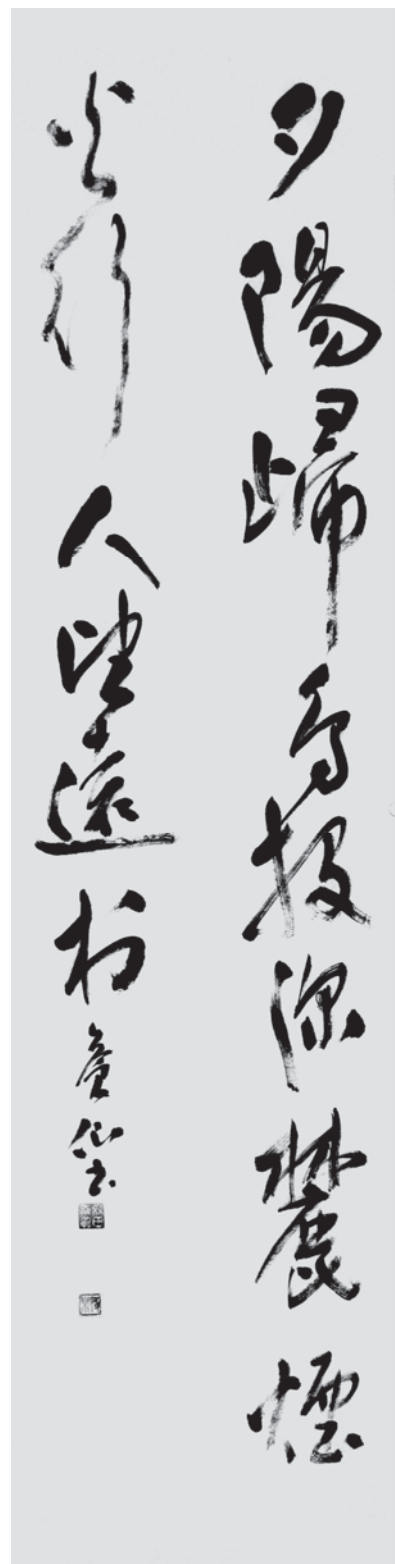
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 四月二十三日 (必着) 半切 (一二六cm × 三五cm)

荻 田 蒼 仙 書

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つぎしました。

(一)自分の氏名)

入学祝いに頂いたお習字セットを
持ち亜希は勇んで書道教室へ
通い始めました 丸をもらって
部屋に飾りご満悦の様子です

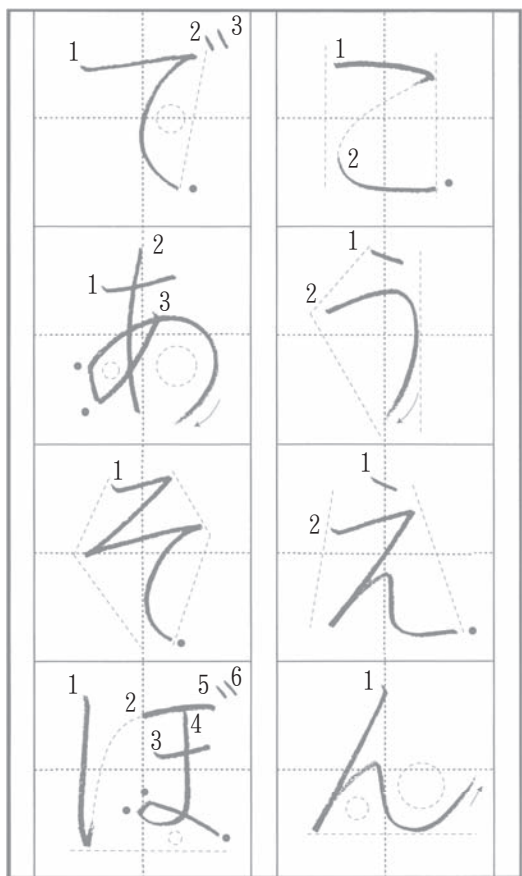
〔条幅解説〕新入から師範までの作例：どのあたりの方に合わせて書くかを考えます。お弟子さんに適したレベルに書いてあげて下さい。簡単な方法として、作例が太ければ細く、細いのを太く、縦長を扁平に、或いはその逆に書くことも一つの勉強です。作品はそっくりより、変えて書くことが実力をつけるのに大切です。但しその結果の作の指導を受けることです。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔大意〕夕日を浴びて
ねぐらに帰る鳥は麓の
深い林に影を投じ、旅
人は飯をたく煙の立ち
のぼる遠村を望んで行
く。

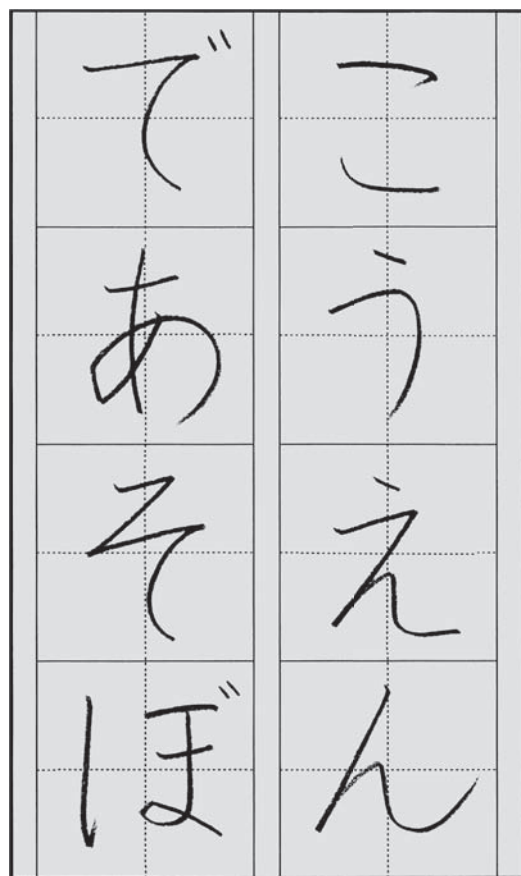
夕陽帰鳥投深麓
煙火行人望遠村

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



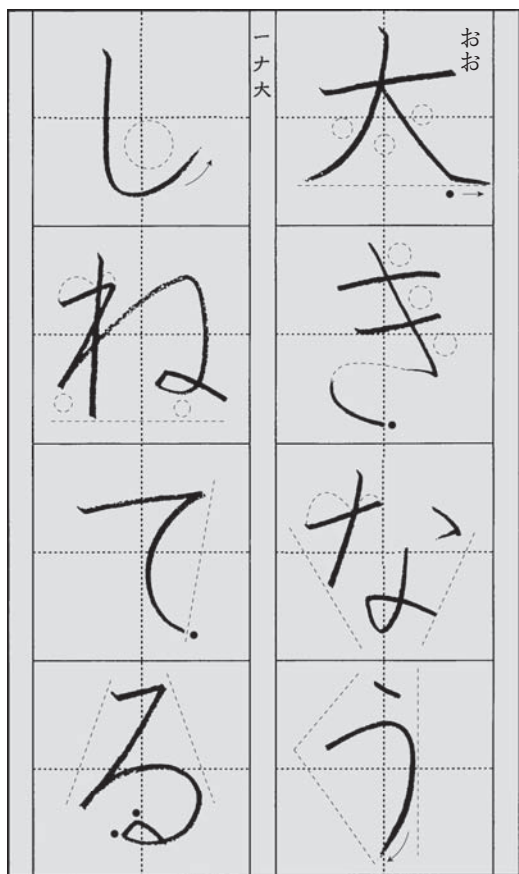
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



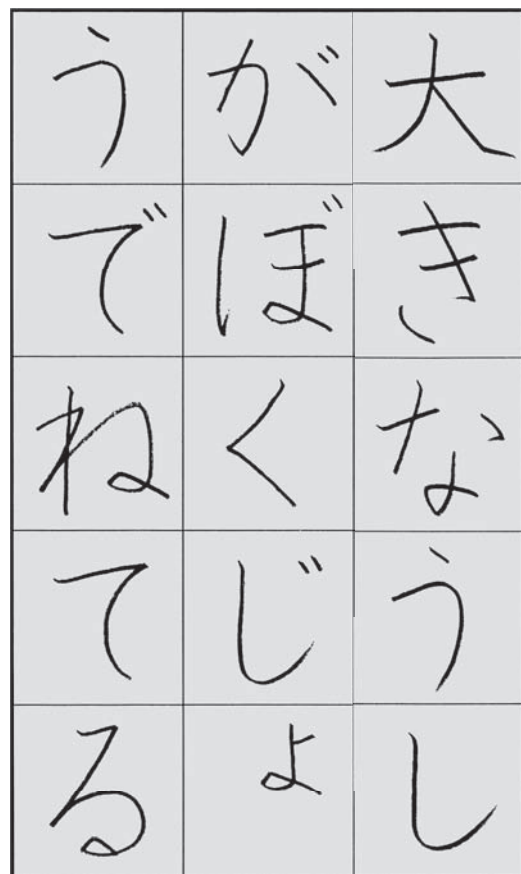
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



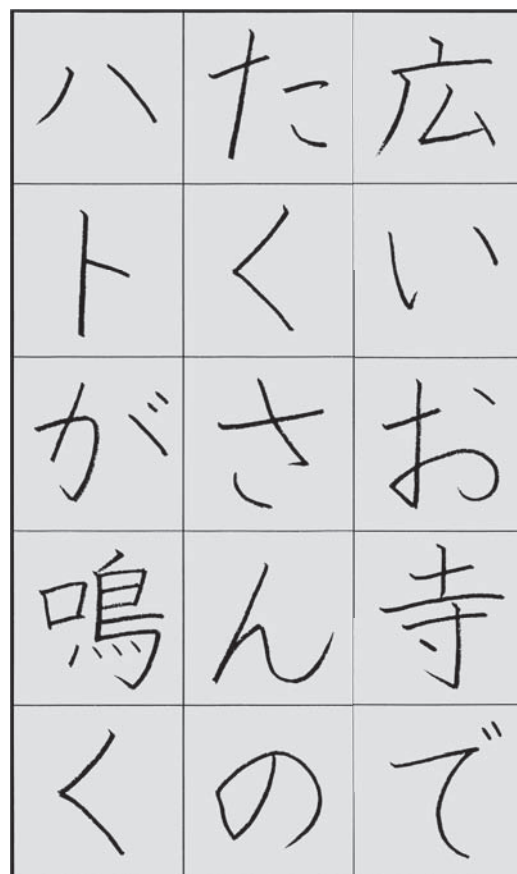
新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



新入1級

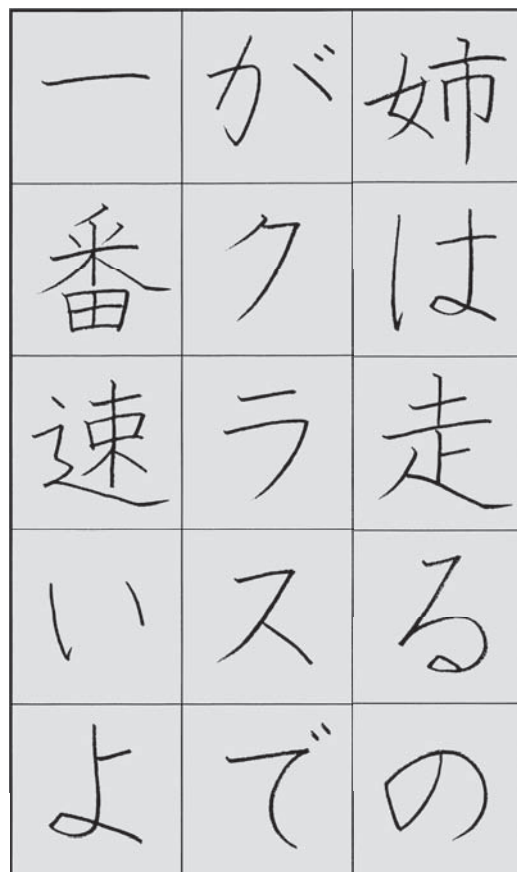


新小二年

準初段以上



新入1級



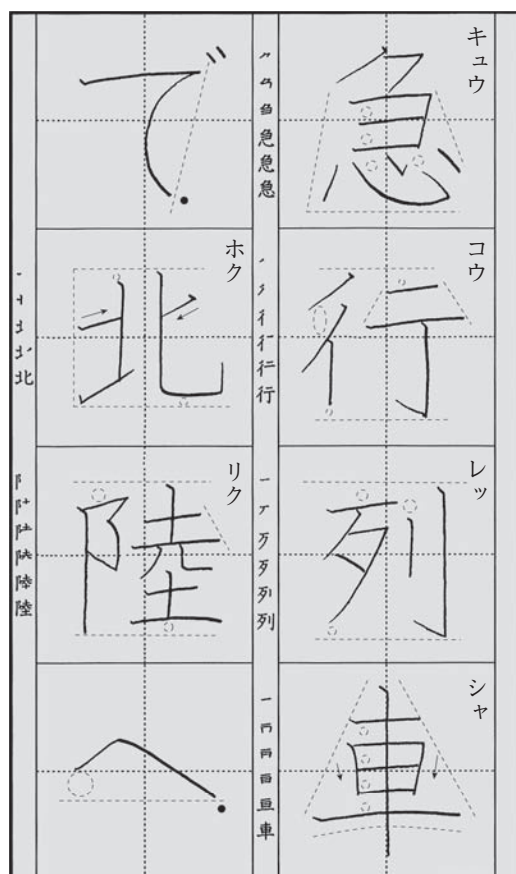
新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- *用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬^{かた}くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- *六月締切り分までは、この方法が続けます。
- *ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。
- *七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

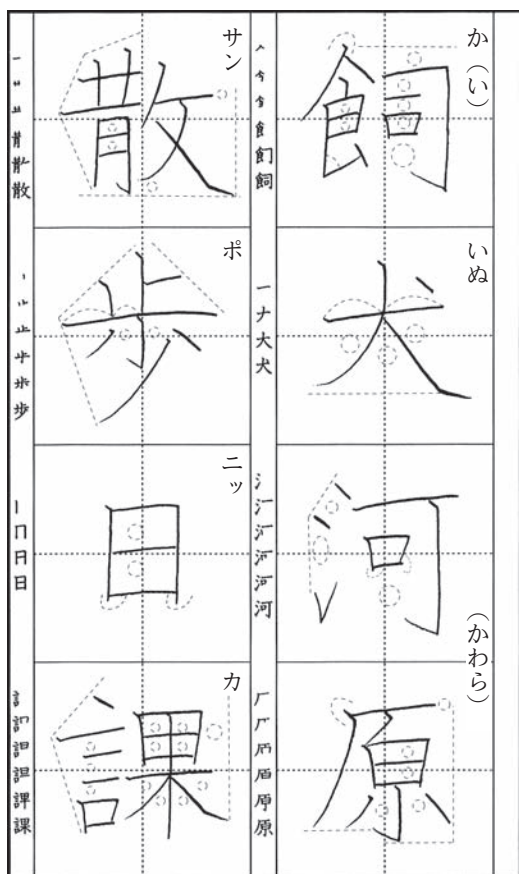
〈用具〉自由(黒色に限る)

新小五年

(全員)



※河原^{かわら}＝単語としてこのように読みます。
小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。
解説(よく見て習いましょう)



小四年以上
岡^{おか}嶋^{じま}桂^{けい}川^{せん}書

〈用具〉自由(黒色に限る)

笑	誠
顔	実
持	心
人	明

解説(よく見て習いましょう)

を	明	誠
持	る	実
っ	い	な
た	笑	心
人	顔	と

新小六年 (全員)

◎お手本はつけペン使用

豊	れ	壁
か	た	に
な	色	掛
油	彩	け
絵	の	ら

新中二・三年 (行書)

音	で	英
を	正	語
学	し	の
ん	い	授
だ	発	業

新中一年 (行書)



こどぎのひろば



幼年

し	た	も	に
よ	い	じ	ほ
う	せ	を	ん
	つ		の
	に		

新小三年

は	書	し	字
ね	き	っ	を
や	じ	か	か
止	ゅ	こ	う
め	ん	う	
	も	え	

新小六年

正	日	す	書
・	常	べ	く
速	の	て	こ
・	文	そ	と
美	字	ろ	が
	を	っ	目
		た	標

新小一年

う	な	か	一
つ	ま	け	ね
く	え	る	ん
く	を	ね	せ
			い

新小四年

気	書	て	美
持	いた	い	し
ち	た	ね	い
を	文	い	ね
こ	字	に	
め	は		
て			

新中一年 (楷書)

魅	書	人	こ
力	く	間	と
あ	た	性	が
る	め	を	大
字	に	高	切
を	は	め	で
		る	す

新小二年

正	も	一	て
し	ち	字	い
い	か	ず	ね
し	た	つ	い
せ	た		に
い	で		
と			

新小五年

心	手	深	伝
の	紙	い	わ
こ	か	愛	っ
も	ら	情	て
っ	は	が	き
た			ま
			す

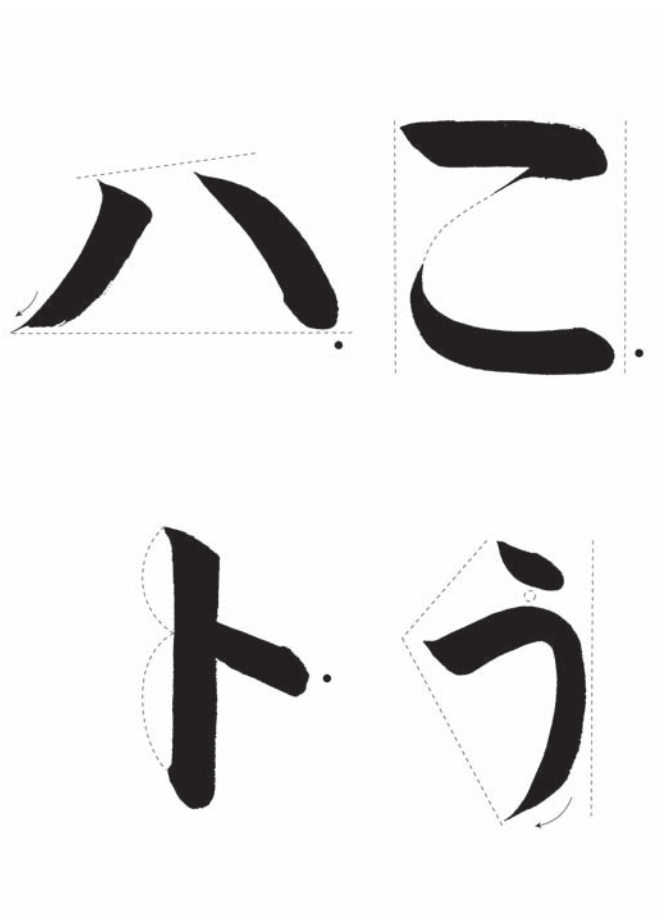
新中二・三年 (行書)

よ	将	先	私
く	来	生	の
勉	は	に	夢
強	書	な	で
し	道	る	す
て	の	の	
		が	

▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましょう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。

幼年／小二年
玉樹小
華書



小五 日課

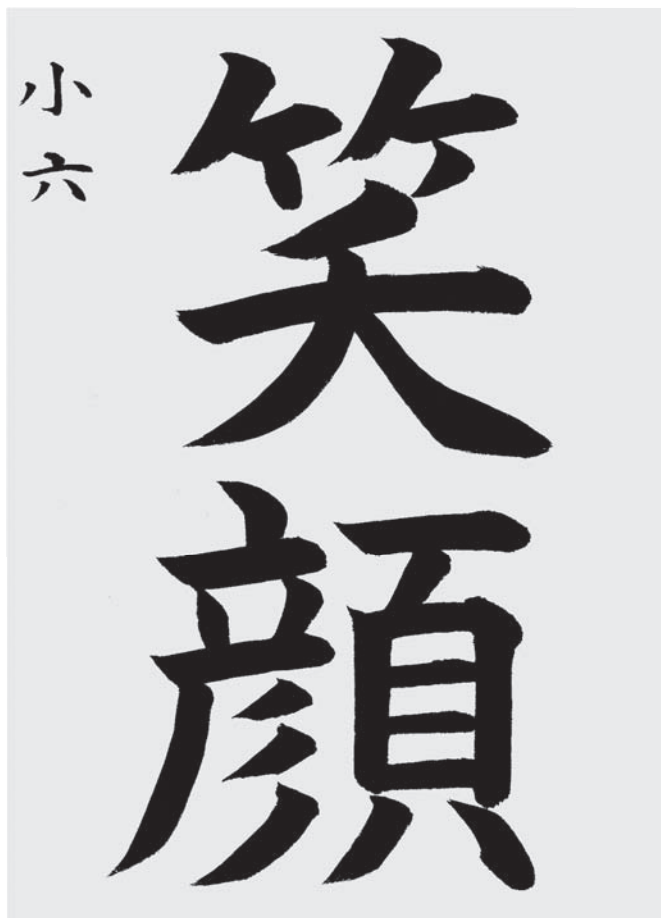
小三 走る

行 走
日 る
課 急

小四 急行

小三・小五年

水野香竹書



小六・中二・三年

奥村暢之書



※行書は、連続する線をリズムよく書こう。

